平成29年度　施策評価シート

基本目標	Ⅰ	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	121	すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる
施策の目標	さまざまな媒体からすみだの魅力が発信され、これまで以上に国内外から多くの人々が「国際観光都市すみだ」にあこがれ、訪れています。	

1　基本計画における成果指標の状況

指　標　名	墨田区観光協会のホームページ年間訪問者数									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	観光課で集計									
実績										
指　標　名	区内を訪れる観光客数（観光関連施設入込客数及びイベント入込客数）									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	観光課で集計									
実績										

2　目標と現状（実績）についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
伝統ある花火大会として、昭和53年に隅田川花火大会の名称で復活して以来、東京の夏の風物詩として、例年90万人を超える観覧客がある。 本催しは、都区民をはじめとする多くの方々に憩いの場を提供するとともに、周辺地域経済の活性化及び当区のシティプロモーション向上に寄与するなど事業効果が非常に高い。しかし、観客の安全確保に向けた対策の拡充や物価高騰等に伴い支出が増加する一方で、協賛企業の撤退や協賛規模の縮小による収入減があり、財政的な課題がある。そこで、支出内容の見直しと収入の確保に努めて継続的な事業開催ができるように取り組む必要がある。	H28	29,007
	H29	
	H30	

3　施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	隅田川花火大会の開催事業は、周辺地域経済の活性化及び当区のシティプロモーション向上に寄与するなど事業効果が非常に高い。その一方で、支出内容の見直しと収入の確保に努めて継続的な事業開催ができるように取り組む必要がある。

4　今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	（1）　優先的に資源投入を図る。
	（2）　現状維持とする。
○	（3）　現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	（4）　資源投入の縮小を図る。

【上記の判断理由】

本事業は、過去30数年の実績のもと、全国でも代表的な夏の風物詩として認知され、都区民から親しまれている。今後も伝統ある花火大会として、特に安全面と資金面に留意しつつ、現状維持で事業を展開していく。

【今後の具体的な方針】

国際観光都市「すみだ」のシンボル事業のひとつであることから、更なるPRの充実に努め、国内外を問わず来街者の増加を図る。実施にあたっては、収支状況の改善を図るため、新規協賛企業の獲得に力を入れていく。

５　この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳　出 決算額 （千円）	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値 年度実績値	推移	評価結果 評価対象年度
1	隅田川花火大会事業	29,007	東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、例年９０万人以上を超える観客が来場することからも、シティプロモーションに大きく関連する事業である。	950,000人 963,000人	↘	改善・見直し 平成28年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

平成29年度　事務事業評価シート

施　　策	121	すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる	部内優先順位
事務事業	隅田川花火大会事業		1
事業概要	伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を開催し、都区民に潤いと憩いの場を提供しようとするものである。		主管課・係（担当） 文化芸術振興課・文化行事担当 5608-6180
施策への関連性	伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、例年９０万人以上を超える観客が来場することからも、シティプロモーションに大きく関連する事業である。		

必要性・妥当性

区民のニーズ

昭和５３年に隅田川花火大会として復活した伝統の花火大会は、日本有数の花火大会として成長し、都区民をはじめとする多くの方々に愛される事業として定着している。また、例年９０万人を超える観覧客があることから、地域経済活性化の役目も十分に果たしていることからも、区民のニーズはある。

代替可能性の状況（区が実施する必要性等）

当日の観客の安全確保に向けた警備及び安全施設の設置等を都・五区の各自治体がそれぞれ担う必要があるため、今後も区が実施していく必要がある。

有効性・適格性

手段に対する指標（活動指標）

指　標	年１回の開催					単　位	回数
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
1	H37	目標	1	1		1	1
		実績	1				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標	1	1	1	1		1	1
実績							

指標の選定理由及び目標値の理由

伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を毎年継続して開催することが必要であるため。

目的に対する指標（成果指標）

指　標	来場者数					単　位	人
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29		H30	H31
950,000	H37	目標	950,000	950,000		950,000	950,000
		実績	957,000				
	H32	H33	H34	H35		H36	H37
目標	950,000	950,000	950,000	950,000		950,000	950,000
実績							

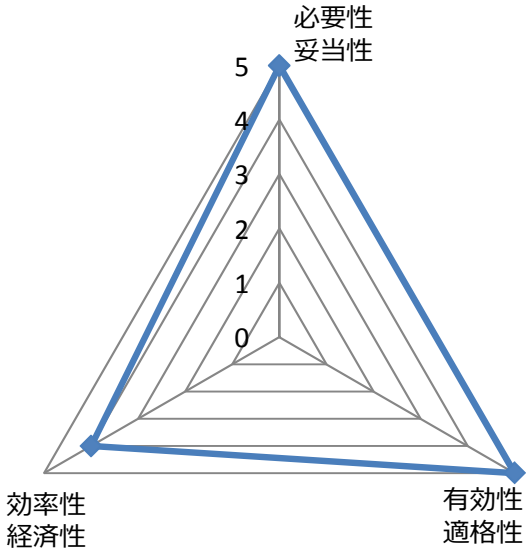
指標の選定理由及び目標値の理由

伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、今後も大勢の観客の来場が、地域経済活性化及び当区のシティプロモーションの指標となるためこの指標とした。

財政面〔決算額〕（単位：千円）

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
29,007						
H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 平成29年度は、40周年記念大会の開催のため補助金額を増額した。			

1　必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	ない
区が実施すべき強い理由があるか	ある
判断理由	
当日の観客の安全確保に向けた警備及び安全施設の設置等を都・五区の各自治体がそれぞれ担う必要があるため、今後も区が実施していく必要がある。	
2　有効性・適格性	
事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある
判断理由	
日本有数の花火大会として成長し、都区民をはじめとする多くの方々に愛される事業として定着している。また、例年９０万人を超える観覧客があることから、当区のシティプロモーションのためには欠かせない事業である。	
3　効率性・経済性	
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある
判断理由	
年々困難さが増している警備・交通整理対策に必要な費用が増加している一方で、企業協賛金も減少しているため、実施工程やコスト改善の工夫に継続して取り組んでいくが、今後は収入のさらなる確保に努めていく必要があるため、この評価とした。	



必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
5	5	4	4

改善・見直しの上継続

中間・最終年度の講評	企業協賛金等の見直しによる収入の減少や、年々困難さが増している警備・交通整理対策等の大きな課題もあるが、今後も観客の安全確保に向けた取組みの強化を図りながら事業を継続して実施する。
今後の方向性	伝統ある行事を今後も継続して開催していくために、新たな収入源が確保できるよう計画的に新規協賛企業の開拓を進めながら、観客の安全確保を第一にした運営を行っていく。

平成29年度　補助金評価シート

補助金名称	隅田川花火大会実行委員会	主管課・係（担当）
根拠法令	単年度決裁	文化芸術振興課・文化行事担当
事業概要	伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を開催し、都区民に潤いと憩いの場を提供しようとするものである。	5608-6180 事業の終期 平成３７年

必要性・妥当性

区民のニーズ

昭和５３年に隅田川花火大会として復活した伝統の花火大会は、日本有数の花火大会として成長し、都区民をはじめとする多くの方々に愛される事業として定着している。また、例年９０万人を超える観覧客があることから、地域経済活性化の役目も十分に果たしていることからも、区民のニーズはある。

代替可能性の状況（区が実施する必要性等）

当日の観客の安全確保に向けた警備及び安全施設の設置等を都・五区の各自治体がそれぞれ担う必要があるため、今後も区が実施していく必要がある。

有効性・適格性

手段に対する指標（活動指標）

指標	年１回の開催				単位	回数
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
1	H37	目標	1	1	1	1
		実績	1			
	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	1	1	1	1	1	1
実績						

指標の選定理由及び目標値の理由

伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を毎年継続して開催することが必要であるため。

目的に対する指標（成果指標）

指標	来場者数				単位	人
最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
950,000	H37	目標	950,000	950,000	950,000	950,000
		実績	957,000			
	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000
実績						

指標の選定理由及び目標値の理由

伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、今後も大勢の観客の来場が、地域経済活性化及び当区のシティプロモーションの指標となるためこの指標とした。

財政面（決算額）（単位：千円）

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
29,007						
H35	H36	H37				

〔予算の傾向〕
平成29年度は、40周年記念大会の開催のため補助金額を増額した。

施策への関連性

伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、今後も大勢の観客の来場が、地域経済活性化及び当区のシティプロモーションの指標となるため。

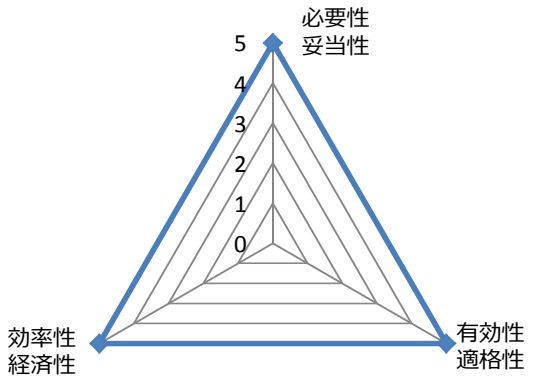
1　必要性・妥当性			5
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する
区の施策目標の実現に寄与しているか	している		
判断理由			
伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれており、事業に対する区民ニーズは高い。当日の観客の安全確保に向けた警備及び安全施設の設置等は、都・五区の各自治体がそれぞれ担う必要があるため、今後も区が実施していく必要がある。			

2　有効性・適格性			5
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	ある	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	明確
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確
判断理由			
必要経費に対して都・五区で負担を分担して補助を行っている。東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、地域経済活性化及び当区のシティプロモーションの拡大に寄与している。			

3　効率性・経済性			5
類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	している
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である		
判断理由			
テレビ東京による当日の中継のほか、大会前には多くの情報誌に区内の産業・観光資源の紹介がされており、地域経済活性化に寄与している。			

【評価結果】

現状維持・拡充



中間・最終年度の講評	企業協賛金等の見直しによる収入の減少や、年々困難さが増している警備・交通整理対策等の大きな課題もあるが、今後も観客の安全確保に向けた取組みの強化を図りながら事業を継続して実施する。
今後の方向性	伝統ある行事を今後も継続して開催していくために、新たな収入源が確保できるよう計画的に新規協賛企業の開拓を進めながら、観客の安全確保を第一にした運営を行っていく。